

テーマ：「ワークライフバランス ～仕事と生活の調和～」

稲村 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。

月に一度お届けしているこのコーナー。今回は、「ワークライフバランス～仕事と生活の調和～」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

さて、本日は、「尼崎市ワークライフバランス推進プロジェクトチーム」から、3名のメンバーをゲストにお迎えしています。実は、このチーム、尼崎市役所職員の、ワークライフバランスについて検討するために立ち上げたもので、今回のゲストも、すべて市の職員となっております。

順にご紹介しましょう。

まずは、尼崎市給与課 課長補佐の、中村直樹さん、

協働・男女参画課 係長の、後藤真弓さん、

そして 道路維持担当の、浅海麻衣さんです。

どうぞよろしくお願いします。

中村・後藤・浅海 よろしくお願いします。

稲村 はい。3人ともね、ラジオに出る機会が少ないので、ちょっと緊張しているかと思いますがね、よろしくお願いします。

さて、「ワークライフバランス」という言葉を初めて聞いたという方も、いらっしゃるかもしれません。「ワークライフバランス」という言葉は、国のほうでは「仕事と生活の調和」というふうに言っています。

私たちの毎日の暮らしや生活は、仕事だけでなく、家族とともに過ごす時間や、趣味を楽しむ時間、PTAやNPO活動へ参加する時間など、いろんな要素で成り立っていますよね。「ワーク」つまり「仕事」というのは、私たちの「ライフ」全体を支える一つの要素として、捉えていただきたいと思います。

「ワークライフバランス」というふうに聞くと、例えば「ワークが5で、ライフが5。5対5のバランス。」というふうな感じで、考えてしまいがちなんですけども、実はそうではない、ということなんですね。「どっちかが大きくなると、どっちかが小さくなる。」ということではなくて、「ライフ」の中に「ワーク」が含まれている、というふうに考えていただきたいんです。

「ライフ」を、「人生」や「生き方」と捉えていただいても、いいかもしれません。要するに、お互いが影響しあって、より充実していく、というイメージですよ。

では、なぜ今、「ワークライフバランス」なのか。

私たちを取りまく状況は、かつてのような「男性は外で働き、女性は家で子育て」という時代から、大きく変わってきました。今や、共働き世帯は、全体の約6割を占めています。また、少子化・高齢化が進み、私たちは「親の介護」という重要な課題にも直面しています。

「ワークライフバランス」とは、仕事のやり方を見直して、成果を落とすのではなくて、もっと効率のいい、質を高めながらも、労働時間は短縮していく。その作り出した時間で、それぞれが望む生活や暮らしを実現する、ということなんです。

そしてそれは、すでに取り上げられてきた「女性の子育て支援」だけではなく、介護問題なども含めて、男女や年代の別なく、まさにすべての人の問題でもある、ということなんです。

そこで、尼崎市では、市民の皆さんのワークライフバランスの確立に向け、保育サービスの提供や、育児・介護休業法の活用支援、また、男女共同参画の促進といった、様々な取組みを進めています。

また、市役所職員のワークライフバランスについては、尼崎市顧問の、船木成記さんによる若手職員育成ゼミ、通称「船木ゼミ」で、この課題に取り組んできました。

そして、このたび、職員一人ひとりがワークライフバランスについて考え、意識改革を進めるために、市役所内に「尼崎市ワークライフバランス推進プロジェクトチーム」を立ち上げたんです。

本日は、そのプロジェクトチームのメンバーに、色々と訊いてみたいと思います。

ではさっそく、このプロジェクトチームの座長を務めます、給与課の中村さんに訊いてみたいと思います。まずは、このチームを設置した経緯や目的について、ラジオをお聞きの皆さんに説明してもらえますか。

中村 はい、給与課の中村です。

ワークライフバランスの推進については、今、市長もおっしゃったように、社会全体で取り組むべき事項であり、尼崎市役所も一つの組織体として、各企業等と同様に、取り組む必要があるものと考えております。

特に近年は、市の若手職員のうち、女性職員の占める割合が急激に増えており、それら女性職員が、数年後には、出産という重要なライフステージを迎えることが見込まれます。また、今後は多くの職員が、家族の介護問題に係わることも予想されます。このような状況への対応策を検討するため、プロジェクトチームを設置したものです。

稲村 はい、ありがとうございます。

今後は、「子育て」や「介護」で一時的に職場を離れる職員が、同時期に増えることも予想される、ということなんですよね。これは、もちろん民間企業でも同様だと思いますし、社会全体で、しっかりと対応していかないといけない、というふうにも思います。

そのような中、私たちは、市の組織としての仕事のパフォーマンスを下げないように、対応策をしっかりと考えていかないといけない、というふうに思っています。

中村さん、このプロジェクトチームには、他にどんな職員が参加していますか？

中村 はい。メンバーは全員で11名です。

人事部門の職員のほか、子育て真っ最中の職員、市民のワークライフバランスを推進している職員など、幅広い範囲の職員で構成されています。

これらのメンバーの中には、先ほど市長がおっしゃった「船木ゼミ」で、「ワークライフバランス」を研究していた職員や、今回、ぜひチームに加わりたくと、応募してきた職員も入っておりますし、また、船木顧問ご本人にも、アドバイザー的な立場で加わっていただいております。

稲村 はい。今日ゲストに来てくださってる浅海さんは、応募によってチームに参加してくれてる

んですね。

浅海さんが「ワークライフバランス」について考えたいと思ったきっかけは、一体何だったんでしょうか？

浅海 道路維持担当の浅海です。

私は、このチームの参加者募集を見て、ぜひ「ワークライフバランス」について考えたいと思い、応募しました。といいますのも、私は、技術職が中心の職場にいますが、そこには今、30歳前後の若手職員がたくさんいます。

今後、その職員たちが、同じような時期に子育て期を迎えると考えられるため、どうしたら、経験や専門性が必要な技術職員たちが、フォローし合える職場環境を作れるのか、と思ったのが、「ワークライフバランス」を考えるきっかけでした。

市長 なるほど。まさに浅海さんの職場にとっても、今、切実な問題になりつつある、ということですね。

私たち一人ひとりが、仕事や家庭生活、そして地域生活や活動を充実させるために、お互いにフォローし合える体制を整えていくこと、特に、浅海さんの職場のように、専門職を多く抱える部署では、本当に重要ですね。

では、もう一人のゲストの後藤さんにも、訊いてみたいと思います。

まず、後藤さんが所属する「協働・男女参画課」というのは、どんな仕事を行っている部署なのか、ぜひ説明してください。

後藤 協働・男女参画課の後藤です。

私の職場では、男性だから、女性だから、といった性別にとらわれず、互いに尊重しあって、個性や能力を発揮できる社会になるよう、市民の皆さんに向けた研修などの啓発事業を推進しています。

平成24年度に「第2次尼崎市男女共同参画計画」を策定し、今、その計画目標の実現に向けて、取り組んでいるところですが、ワークライフバランスの確立は、その基本目標の一つとして、非常に重要な課題となっています。

啓発活動の中心として、阪急武庫之荘駅の南にある、女性センター「トレピエ」で、女性向けの相談事業や講演会などを実施しています。親子で参加できるイベントなどもやっておりますので、市民の皆さんには、ぜひ、楽しみながら参加していただきたいと思っています。

市長 はい。後藤さんは、市民の皆さんのワークライフバランスを推進すると同時に、私たち職員のワークライフバランスについても検討していく、という立場だと思うんですけども、こういったワークライフバランスを推進するにあたって、どんなことが重要だと思っておりますか？

後藤 仕事と生活が調和した状態というのは、人によって違うでしょうし、同じ人でも、ライフステージによって変わってくると思うんです。

稲村 まさにそうですね。

後藤 そういった、様々な事情や価値観を持つ人たちが、一緒にやっていくためには、お互いに多様性を認め合うことが必要だと思っています。

そのためには、残業時間の削減や、休暇制度などといった、労働環境面での取り組みも必要ですが、それとは別に、私たち働く人の意識も変えていかなければならないと思います。「どうすれば効果的で効率的な時間の使い方ができるのか」を、私たち一人ひとりが考えて、自らのワークライフバランスを勧めていくことが、重要だと感じています。

稲村 本当にそうですよね。一人ひとりが、仕事を効率化することで得られた時間を、仕事以外に活用することで、より充実したライフを目指していく。そして、充実したライフの部分が、また仕事の質を向上させる。これがすごく大事なことだと思います。

私たちは、「ワークライフバランス」、これは、ある意味「ワークライフハーモニー」というふうに捉えて、両方がいい影響を与え合うような環境づくりを進めていきたい、というふうに思っています。

では、最後に中村さん、プロジェクトチームの今後の予定を聞かせてもらえますか。

中村 はい。このチームは、先月、第1回目の検討会を開き、まずはメンバー全員で、ワークライフバランスの基本的な知識・情報を共有するとともに、それぞれの課題認識などを意見交換したところです。

次回以降、市職員の現状について分析を進めていく中で、課題を整理し、実効力のある取り組みを導き出していきたいと、考えております。

稲村 はい。「先づ臍より始めよ」ということで、市役所のワークライフバランスにも、しっかり取り組んでいくとともに、そういったことを市域全体に、しっかり広げて行きたいなというふうに思っております。一緒にがんばっていきましょう。

皆さん、今日はありがとうございました。

中村・後藤・浅海 ありがとうございました。

稲村 私自身も、今、小学生になる娘を1人育てながらの、仕事ということになっているんですけども、やっぱり、家庭の部分、そして仕事の部分、両方に影響しあってるな、というふうに思います。自分がやはり精神状態も含めて、コンディションが良くないと、集中していい仕事できないな、というふうにも思いますし、私自身も、そういった自分自身の実感や、自分が体験したことなどもふまえながら、多くの人たちと一緒に、取り組みを進めていきたい、というふうに思っています。

さて、それでは次回の放送も、皆さん、ぜひ楽しみにしててください。

今日はありがとうございました。

以 上